

# 第14回高校教育研究協議会

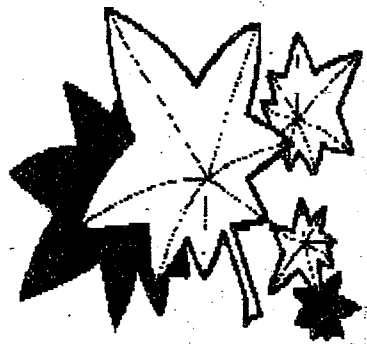
## 資料

平成2年11月9日（金）

金沢大学教育学部附属高等学校

## 目 次

本校の新教育課程表編成について	1
国語科	5
地理歴史・公民科	7
数学科	9
理科	10
保健体育科	14
英語科	15
家庭科	16



## 本校の新教育課程表編成について

本校では以下に述べるような段階を経て新教育課程表を作成した。

### 1) 高等学校学習指導要領改訂の基本方針

平成元年3月出された新学習指導要領の基本方針は次の4つである。

- 1 豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成をはかること  
— 心豊かな人間の形成 —
- 2 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること  
— 自己教育力の育成 —
- 3 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること  
— 基礎基本の重視と個性を生かす教育の充実 —
- 4 国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること  
— 文化と伝統の尊重と国際理解の推進 —

### 2) 附属学校統合移転基本構想に盛り込まれた教育構想

昨年度より附属学校4校園統合移転構想があり、本校でもこの平和町地区に4校園が一緒になる為のさまざまな計画を練った。その際の基本理念は、先の4つの基本方針に沿ったものである。この新教育課程表はその統合移転基本構想と共に考えた。

- 目標1 「豊かな人間性を備えた人格の育成」
- 目標2 「生涯学習の基盤をつくる」 — 自ら学ぶために —
- 目標3 「健全な身体を育成する」 — 地域の特性に応じた方法で —
- 目標4 「文化的活動を促進する」 — 情緒性の育成を目指して —
- 目標5 「徳性の涵養を目指す」 — 特別活動をとおして —
- 目標6 「国際社会、情報化社会に適應する基盤を作る」
- 目標7 「安全性を確保する」

(統合移転「基本構想」より)

\*目標1の第4段階、高等学校においては

豊かな人間性の完成に向かって、自己開発を促す。

- ① 個性や能力に応じて、自己を高めていく。
- ② 健全な心身を育成し、自主・自由・自立の精神を身につけていく。
- ③ 知的創造力、文化的能力を高め、高い品性を陶冶し、国家社会に貢献できる人間となる。
- ④ 国際社会に貢献できる人間となる。

( 同 )

3) 平成2年5月、総則編の解説書が発行され、次の事項を確認した。

- 1 教育課程編成の主体がこれまでの「学校において行なう」から、「各学校において行なう」と「各」の字がついたことで、全教師の協力の下で校長が責任者となって編成してもよい。
- 2 教育課程編成の原則
  - ア 法令及び学習指導要領の示すところに従うこと
  - イ 生徒の人間として調和のとれた育成を目指すこと
  - ウ 地域や学校の実態を十分考慮すること
  - エ 課程や学科の特色を十分考慮すること
  - オ 生徒の心身の発達段階及び特性等を十分考慮すること
- 3 自己教育力の育成及び基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実
  - ア 自己教育力の育成
  - イ 基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実

以上1)、2)、3)を念頭において本校の教育課程編成方針を考えた。

## 新教育課程

(平成6年度以降逐年移行)

### 金沢大学教育学部附属高等学校

---

#### 教育課程編成方針

1. 本校独自の歴史的背景および展望を重視し、学校としての伝統性、社会的存在としての特性や条件を十分に考慮し、かつ生徒の独自性を尊重し、その発達段階や特性をも十分に考慮しつつ、個性の伸長と調和のとれた発達とを図る。
2. 教科科目の専門性と系統性を重視するため、学年をおって学習の幅と深みが得られるように、科目の履修順序や配列を考慮する。従って、低学年にあっては基礎的基本的な教科科目を配置する。又、生徒の適性と個性の進展に従って履修と修得が出来るようにする。
3. 以上の指針を具体化するに当たって、次のことを実施する。
  - ア. 3年次において、文理のコース制を取り入れる。
  - イ. 3年次において、選択履修を増やす。
4. 各教科の学習指導に当たっては、個々の生徒の特性と能力を十分に考慮して指導し、習熟度別学習などの多様な指導をいかに行なうか、具体的に考える。

新教育課程（平成6年度以降逐年移行）

奈良大学教育学部附属園高等学校

平成2年7月20日

教科 科目	単 位 数	1年			2年			3年		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
国語	4	4			4			4		
英語	2	2			2			2		
公民	4	4			4			4		
数学	3	3			3			3		
理科	2	2			2			2		
保健体育	1	1			1			1		
芸術	1	1			1			1		
外国語	2	2			2			2		
家庭	2	2			2			2		
特別活動	1	1			1			1		
計		36			36			36		

<注> 3年コースでは、地歴科4単位もしくは公民科4単位、もしくは数学A2単位・数学B2単位の計4単位のいずれかを履修しなくてはよい。その際、地単位2単位をいずれかの教科科目で履修するものとする。（ただし、体育と芸術の教科は除外する）

## 国語科

### 1) 本校の新旧カリキュラムの違い

国語科の各学年に配当する時数は、全体として改訂前と変わらない。変更点の主なものとしては、

- ① 第二学年における国語Ⅱ（4単位）、古典（1単位）を実施せず、現代文（2単位）、古典Ⅰ（3単位）とする。
- ② 第三学年文系コースの現代文を現行の3単位から2単位とし、古典（4単位）を、古典Ⅱ（3単位）、古典講読（2単位）とする。

ただし、①は従来国語Ⅱにおいて行なっていた内容を、読解・鑑賞を中心に、より深めて行なうという意図による科目の変更であり、また、②は科目間における時間配分の変更であるので、新旧のカリキュラムを比較すると、大きな変更はないといつてよいであろう。

### 2) 本校の新カリキュラムに対する国語科の考え方

本校国語科としては、新学習指導要領や本校の教育目標に基づき、個人の特性を生かし、品性を陶冶しつつ国際化・情報化社会に対応することのできる人材を育成すべく、言語の基礎的・基本的事項の習得から、自己の表現、他への理解といった能力、わが国の文化・伝統をしっかりと認識する能力の育成を図る。そのために、次の6項目を国語科の教育方針としたい。

- (1) 中学校国語との関連から高等学校国語としての基礎的・基本的な総合的国語力を身につけさせる。そのために、言語感覚を養い、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を養う。
- (2) 論理的思考力を伸ばし、話す・書くなどの表現力を養う。
- (3) 作品の読解や鑑賞をする能力を伸ばし、理解力や豊かな心情を養う。
- (4) 言語能力を育成し、言語事項への関心を高める。
- (5) 古典を学習することによって先達の様々な生き方・考え方を理解する。
- (6) 古典の作品を読解、鑑賞することによって、わが国の文化と伝統に対する理解を深める。

新カリキュラムでは、これらの方針をふまえ、(1)は国語Ⅰにおいて、(2)・(3)・(4)は各科目全般にわたって、(5)・(6)は古典Ⅰ、古典Ⅱおよび古典講読において指導を行なう。

### 3) 新カリキュラムの学年ごとの扱い方

#### 第一学年

- ・「国語Ⅰ」 現行指導要領と同じく必修科目である。中学校国語の内容との関連を図りながら、高等学校国語の基礎的・基本的事項の習得をめざす。総合的な国語力の育成を図る。
- ・「国語表現」 「国語Ⅰ」の表現領域の内容を、さらに深化発展させる。

☞その他指導内容 漢字（読み・書き取り） 読書（課題図書選定）  
作文（自叙伝・その他課題作文） 文法（文語文法）

#### 第二学年

- ・「現代文」 「国語Ⅰ」の理解領域の内容を、さらに深化発展させ、近代以降の作品を読解し鑑賞する能力を高める。
- ・「古典Ⅰ」 「国語Ⅰ」の古典の理解領域の内容を、さらに深化発展させ、古典としての古文と漢文を読解し鑑賞する能力を養う。

☞その他指導内容 古典語彙（熟語・形容詞など）  
プリントによる読解教材

#### 第三学年

- ・「現代文」 第二学年の内容を継続する。
- ・「古典Ⅱ」 「古典Ⅰ」の内容を、さらに発展習熟させ、古典の説解能力の一層の向上をめざす。
- ・「古典講読」 古典に対する関心を深めるとともに、わが国の文化と伝統に対する理解を深める。

☞その他指導内容 プリントによる多読教材  
大学入試に資するための問題演習など



## 地理歴史科・公民科

### 1) 新旧カリキュラムの違い

現行のカリキュラムは、1年生で「現代社会」(4単位)、2年以降は「地理」「日本史」「世界史」から理系1科目7単位(2年3単位+3年4単位)、文系は2科目14単位(2年3+3単位・3年4+4単位)を履修している。

新カリキュラムの特徴を以下に示す通りである。

<1年> 現代社会4単位、全員必修(公民科必修単位充足)

<2年> 地歴分野を全部履修させる。但し1単位科目は主体的学習にあてる。

文理区分はしない。(地歴科必修単位充足)

<3年> 文系:各4単位科目、世界史B、日本史B、地理B、倫理・政経から  
2科目または1科目選択+1単位の主体的学習をおこなう

理系;全員、4単位科目から1科目4単位選択必修

※2年、3年における+1単位は原則として講義形式をとらず、テストも実施しない科目である。

### 2) 新カリキュラムの考え方

新カリキュラムは基本的に新指導要領に従ったのではなく、現行のカリキュラムの問題点の上に立って考えたものである。現行カリキュラムによる問題点を列挙すると、①科目領域をこえた総合的な社会認識、世界像(観)が十分に育成されていないこと、②自主自律的な学習姿勢や創造的な能力が十分に育成されていないこと、であった。

その理由は現行の「ゆとり」のカリキュラムにあると判断したが、具体的に示せば、①履修科目の削減が多く価値観に触れる機会をも奪い、その結果、総合的な社会認識が育成されにくくなったこと、②同様に科目削減が生徒の学習姿勢を受験優先にさせすぎてしまい、科目に固執して知識の範囲が固定化してしまったこと、③受験優先の姿勢が、受動的な学習方法以外を受け付けなくさせていること、であると判断した。

この現状認識に立って本校における「地歴科」「公民科」の新カリキュラムは、原則として以下の条件を満たすものが望ましいということになった。

①多くの価値観に触れるために、できるだけ多くの科目を履修させること、

②自主自律的な学習を行なう機会を設け、何らかの形でカリキュラムに組み込むこと、である。

3) 上記の主旨を受けて様々な試案が検討されたが、その一つが「講座制カリキュラム」と呼ばれる案であった。これは本来社会科が担うべき能力を育成するために、これまでの教科科目にとらわれずに全く新しい内容によって構成された、多くの科目(これを「講座」と呼ぶ)を設定した上で、できる限り多くの科目を選択させようとするものであった。この案を考案した理由は、①まず、受験を全く意識できないこと、②選択の時点で生徒の主体性を尊重できること、③評価方法の改善がしやすいこと、であった。

しかし、新指導要領が出され、その趣旨との関係から校内協議を経て廃案となった。具体的な理由は①各「講座」設定準備において研究準備期間があまりにも不足していること、②諸講座を設定するにあたって教室やスタッフの問題など物理的な環境が十分ではないこと、等々である。最も大きな問題となったのは、生徒の主体性を回復するには、まず、教師自身の意識改革がなされなくては意味がないということであった。

以上のような経過をたどりながら、指導要領の改訂に合わせて最終的に合意を得たのが前出した新カリキュラムである。このカリキュラムの特徴を列挙すれば、①2年までは文理区分をしないこと、②2年迄で地歴史分野、公民分野ともに学習する機会が与えられること、③そのために積極的に「A科目」科目を実施すること、④2年と3年で1単位科目が実施されること、である。

1年で「現代社会」を履修させるのは、中学校3年で履修する「公民」との関連を図ること、および2年以降の基礎を定着させるために最も相応しい科目として位置付けることができるからである。また、2年まで文理区分をせず、さらに、全分野を履修させることにしたのは、基礎的教養を充実するとともに、最低社会科学の各方法論には接する機会を設けるためである。2単位科目である各「A科目」を選択させることにしたのは、物理的に4単位科目を全部履修することが不可能であるということだけでなく、内容上方法論に重点が置かれているからでもある。1単位科目を設定したのは、「講座制案」で課題となった、主体的学習を実施する機会を設けるためである。したがって、前出したように1単位科目は原則として講義形式をとらず(討論・パネルディスカッション・ゼミ形式等を予定)、テストも実施しない科目として位置付けたいと考えている。今のところ2年では金沢の地域誌史をテーマにまた、3年では、高校における地歴公民科学習の総括的なテーマを設定してみたいと考えている。今後はこの1単位科目具体的実施方法と3年間を通じた科目内容の精選等を検討したいと考えている。

## 数学科

この度の改訂についての本校数学科の受けとめ方は次のようである。

一番大きな変更は、数学A, B, Cが4単位分準備され、しかも標準単位が2単位である点である。そのため各高校では独自の教育課程を組まざるを得ない。

数Iが基本的で分量が少ないことは、全高校生必修とするためには避けられないことであり、数IIもそれに準じている。したがって数IIIまで履修するものにとっての第1,2学年の指導内容は、単純に1年は数Iと数A、2年は数IIと数Bとして、適切な教育課程は作れないように思われる。3年の指導内容をできるだけ軽減するように、数IIIや数Cの内容を1,2年におろす必要がある。

今までの数Iが計算力を付けるための指導内容が続きすぎて、面白くないものになっていた。それを分散させる姿勢には我々も賛成である。ただ、数IIIを学習するために必要な計算力やグラフに対する理解が1,2年で養成されるかについては不安を感じる。これを考慮して教育課程を作るべきであろう。

コンピューター教育はコアの中には取り入れられていないが、重視される方向にあることには明白で、本校でもその導入を模索せざるを得ない。

以上を受けて、本校数学科教育課程編成の基本方針は以下の通りである。

- I. 本校数学科の教育課程は、低習熟度の生徒対策や特に数学を好む生徒対策の特別講義や夏期の補講等も含めて考える。
- II. 選択性は、科目選択をとらずコース選択とし、3年次にのみ取り入れる。コースは文系3コース、理系2コースとし、表面は進路別選択としながら実質は習熟度別になるよう配慮する。大学入試に数学を必要としないコースにも3年次に微積分を教養として2単位分学習させる。
- III. 1,2年の授業は、数I, II, IIIをコアとするものとして作成し、一部、科目の枠をはずし各学年に指導内容を割り当てる。3年次は1,2学年に学習した内容を深めるための復習の授業を取り入れる。
- IV. 1単位30時限で計画し、各指導項目に対して、重要度・難易度を考慮して、a, b, cのランク付けをする。
- V. (1) 論理性を重視し、公理的展開など現代数学の一端に触れるよう配慮する。  
(2) コンピューターは1年夏期休暇中に慣れることを目標に12時限の授業を行い、2年次に「いろいろな曲線」において既成のプログラムを用いて曲線を描かせる。その他は、自由な使用を許可し興味のある生徒が自学する体制をとる。  
(3) 創造性を高めるために、テーマ学習、問題解決学習を重視する。

## 理 科

### 1) 本校の理科の新旧カリキュラムの違い

旧カリキュラムにおいては、1年次に理科Ⅰを4単位全員必修で行ない、2年次には、文系は物・化・生から1科目3単位を、理系は物・化・生から2科目計6単位を選択し、3年次には2年次と同じ科目を引き続き4単位ずつ学習するようになっていた。2、3年においては社会との同時展開で授業が行なわれていた。

新カリキュラムにおいては、1年次には生物Ⅰb、化学Ⅰbを2単位とした。ただし、化学のうち1単位は物理Ⅰbの力学を行なうことを予定している。また、2年次での文理別をやめ、全員2科目を選択履修することにした。3年次においては、文系理系別のコースとなり、文系は2年での選択科目から1科目を1単位で、理系は2年での選択科目および物化生のⅡより2科目を2単位で履修する。それにともない2、3年での社会との同時展開も止めることとした。

### 2) 本校の新カリキュラムの理科における考え方

次に本校理科における教育方法の考え方を示す。

- (1) 科学の体系を重視した教材配列によって学習を進める。
- (2) 実験観察などを通し、体験に基づく知識の定着に心がける。
- (3) 創意ある研究報告書の作成を通し、化学的な表現の能力を育てる。
- (4) コンピュータ等を有効に活用し、基本的原理や仮説より生起するであろう事象を予測する作業によって、自然現象や生命現象についての理解が深まるように配慮する。

以上の考え方により、本校では物理・化学・生物のⅠbとⅡの科目群を採用する。

### 3) 本校の新カリキュラムの理科での扱い方

1年次には、自然現象に対する物理的、化学的、生物的視点を全員が学習する。

2年次には、個々の生徒の興味関心に応じて2科目を選択し、履修する。なお、本校の過去の様子から文系進学者はほとんど物理を選択していない。

3年次においては、文系コース選択者はさらにその興味、関心、適性に応じて1科目に絞り学習を深める。理系コース選択者は2年での選択科目を引き続き履修し、さらに、Ⅱの科目に進むことでより深く学習することになる。

# 物理について

## 1) 本校の物理の新旧カリキュラムの違い

授業開講を社会との抱き合わせをやめ、文科・理科のコース選択を2年末にしたことにより、以下のように変更があった。

旧カリキュラムは、1年理科Ⅰの中で1単位、2年選択者のみ3単位、3年選択者のみ4単位の合計8単位であったが、新カリキュラムでは、2年選択者のみ物理ⅠBを2単位、3年選択者のみ物理ⅠBを2単位、物理Ⅱを2単位、合計6単位となっている。学習内容が増加し、探究活動や課題研究が入ったため、やることが増加したが、本校では単位減となった。1年の化学2単位のうち1単位を物理にして実質合計7単位とすることが考えられている。

## 2) 本校の新カリキュラムの物理における考え方

1年時に物理を1単位やればそれを参考にして2年時から生徒に理科の選択をさせる。2年時に選択する生徒は過去の経験によれば、大半が理科系大学進学希望者となろう。3年時には、さらに文科系と理科系に別れる。文科系の選択者はほとんどいないと考えられる。

## 3) 本校の新カリキュラムの物理の扱い方

1年時には、物理ⅠBの「静力学」から始め、「運動の法則」までやりたい。

2年時には、物理ⅠBの「力学」の残りと「熱」、「波動」までやればよいと考えている。

3年時には、理科系は物理ⅠBの「電気」、「原子」をやり、その後、物理Ⅱの「力学」、「気体分子の運動」、「電気」、「原子」とやっていく。文科系は物理ⅠBの残りをやることになる。

探究活動については、従来の生徒実験を、「クッキングブック」のようなやり方でなく、もう少し生徒自身が考えてやれるようにし、レポートを提出するようになりたいと思っている。

物理Ⅱの課題研究については、現在、未検討でまだはっきりしたものはない。ただ、生徒数、施設・設備・実験器具、レポートに目を通す教員の手間を考えると、本校のみならず、どの程度のことのできるのか、不安である。いくつかできそうなテーマを考えて選ばせることになるのでないかと思う。

コンピュータの活用をしなければならなくなったが、コンピュータが物理実験室か準備室に入れば、実験のデータ整理に使わせたり、シミュレーションや実験の測定器具のひとつとして使うことが考えられる。検討中である。

## 化学について

### 1) 本校の化学での新旧カリキュラムの違い

理科5区分から2区分にわたって2科目を履修させる必要性があり、化学Ⅱは化学Ⅰbの履修後に履修することが要望されているため、次のような変更となった。

旧カリキュラムにおいては理科Ⅰの中で1単位、2年次においては選択者のみ3単位、3年次においては引き続き4単位の合計8単位で履修していた。新カリキュラムでは、1年次において2単位(内1単位は物理Ⅰbの内容の1部を行なう予定)、2年においては選択者(ほぼ全員が予想される)のみ2単位、3年次には、文系コースでの選択者には1単位、理系コースでの選択者にはⅠb 2単位、Ⅱ 2単位の計4単位で履修する。したがって、文系進学者には計4単位、理系進学者には計7単位で行なうことになる。

### 2) 本校の新カリキュラムの化学における考え方

旧カリキュラムでは1年から3年にかけて、粒子の存在から化学反応の理解までを一貫した組み上げ方式により学習していたが、新指導要領ではこれが難しくなった。しかし、今後もこの方式を継承したく考えているので、Ⅱの内容のうち「反応の速さと平衡」をⅠbに盛り込む予定でいる。このことによって、今までに蓄積した教材や教授方法を生かしていきたいと考えている。

### 3) 本校の新カリキュラムの化学での扱い方

1年次には、「(1)物質の構造と状態」のうち少なくとも「エの(7)気体、液体、固体」までを扱う。

2年次には、「(1)物質の構造と状態」の残りを行ない、次に「(3)物質の変化」を「(ウ)化学反応と熱」, 「(7)酸と塩基の反応」, 「(イ)酸か還元反応」の順で行なう。ここで(ウ)と(7)の間にⅡの「(1)反応の速さと平衡」を組み込む予定でいる。その後、「(2)物質の性質」のうち「(イ)有機化合物」を行なう。

3年文系コースでは「(2)物質の性質」のうち「(7)無機物質」を行なう。

3年理系コースでは、「(2)物質の性質」のうち「(7)無機物質」とⅡの「(2)高分子化合物」を行ない、その次にⅡの「(1)反応の速さと平衡」の内容をより深く行なう。その上で、反応の速さ、化学平衡、中和滴定について、コンピュータ・シミュレーション等を用いた課題研究を課す予定でいる。

## 生物について

### 1) 本校の生物の新旧カリキュラムの違い

旧カリキュラムは、1年理科Ⅰの中で2単位、2年選択者のみで3単位、3年選択者のみで4単位の計9単位であったため、かなり余裕があった。新カリキュラムでは、1年生物ⅠBを2単位、2年選択者のみ生物ⅠB 2単位、3年文科系選択者は生物ⅠB 1単位、理科系選択者は生物ⅠB 2単位、生物Ⅱ 2単位となっている。すなわち、文科系選択者は計5単位、理科系選択者は計8単位である。

### 2) 本校の新カリキュラムの生物における考え方

本校では、理科系生徒の生物選択者は例年1~3名と少ない。そこで、一般教養としてぜひ身につけて欲しい内容は、全員必修の1年次に行おうと考えている。このことは旧カリキュラムでも同様であった。

探求活動については、現在のところ「何をもって探求活動というか」の具体的な例がわからないので、検討中というのが正直なところである。ただ、できるだけ生徒が自主的に行えるような型にしたいと考えている。

コンピュータについても、どのようなソフトを用いるかも含めて、その活用方法は検討中である。

### 3) 本校の新カリキュラムの生物の扱い方

2)をうけて、1年次ではできるだけ広い範囲をやりたいと考えている。すなわち、「細胞」、「生殖と発生」、「刺激の受容と動物の行動」、「内部環境とその恒常性」である。また、本来は生物Ⅱの内容であるが一般教養という意味で「形質発現と核酸」をやりたいと考えている。

2年次では、まず「代謝」をやりたい。この分野は実験が多くできるのでできれば1年次に行いたいが、ある程度の化学の知識が必要なため、この時期になるであろう。以下、「遺伝と変異」、「生物の集団」をやり、できれば2年のうちに生物ⅠBを終わらしたい。

3年次では、文科系は生物ⅠBの復習、理科系は生物Ⅱとなるであろう。





## 保健体育科

### 1) 本校の新旧カリキュラムの違い

- ・ 旧カリキュラムにおいては、男子体育11単位・女子体育7単位であったが、新カリキュラムにおいては、男女差を解消し、男子・女子体育を9単位履修とする。
- ・ 武道・ダンスを同時開講にし、施設・設備の都合上学校選択とし履修する。

### 2) 本校の新カリキュラムの教科における考え方

- ・ 健康・体力・運動能力の現状を把握し、自己の特性に応じた合理的運動の方法を理解する。
- ・ 自他の安全について留意しながら、主体的に運動を実践し、健康の保持増進・体力の向上・運動技能の修得に努める。
- ・ たくましく活力のある心身の発達を促すとともに、生涯を通して継続的に運動を行なうための能力を育成する。

### 3) 本校の新カリキュラムの教科の扱い方

#### 学年毎のカリキュラム

- ・ 1・2年においては、多くの運動領域・運動種目を履修し、3年の段階で選択履修を実施する。
- ・ 保健は現状どおり、1・2年で2単位を履修する。

## 英語科

### 1) 新旧カリキュラムの相違

多様化する生徒に対する学習指導をいかにしてきめ細かく対処するか、また、英語圏の人と対話する国際人を育成するにはどうすればよいか、この2点がこれまでになく現実味を帯びた相違である。

### 2) 新カリキュラムの考え方

a) 英語を理解し、英語で書き表す能力と技量を養わせ、自らも進展するように指導する。

- ・基礎的基本的な英語力を学習し、次の段階における開発応用性が育成されていくように指導する。
- ・英語Ⅰ、英語Ⅱを中心として履修させ、リーディングとライティングを中高学年において履修させる。

b) 英語を聞き、英語で話す能力と技量を養わせ、自らも進展するように指導する。

- ・基礎的基本的に英語を聞き、話す学習をし、身近なことや感覚、感情、思いなどが基礎的に発表できるように指導する。
- ・英語圏の人と対話が基礎的に基本的にできる人間を育成する目的意識をもって学習させ、指導する。
- ・この方針に基づいてオーラル・コミュニケーションAを履修させる。
- ・英語のネイティブスピーカーをアシスタントとして積極的に活用する。

### 3) 新カリキュラムの扱い方

a) 英語ⅡAは現在実施していないが、これに相当するオーラル・コミュニケーションAを1、2年にわたって1単位ずつ実施する。

b) 1年から3年に7・7・6の単位履修を実施しているものを6・7・7(文系)、6・7・6(理系)に分けて実施する。

c) 3年において文理の2コースに分割履修が行われるが、英語に関しては、文系の1単位増のほかは全て文理別なく履修させる。

- ・文系1単位増は、習熟度別授業の展開を生徒側の希望選択により実施する。

## 家庭科

### 1) 本校の新旧カリキュラムの違い

女子のみ「家庭一般」4単位履修から、男女共に「家庭一般」4単位履修に変わる。

### 2) 本校の新カリキュラムの教科における考え方

学習指導要領の改訂により、平成6年度から家庭科は男女必修となる。これは、家庭科のみならず社会全体にとっても意味のあることだと思われる。しかしながら、この家庭科男女必修は、教育現場や社会全体の要請が先導したわけではなく、実際には1985年の女子差別撤廃条約批准により実現したとも言える。従って、これから行われる男女共修家庭科は、既成の観念にそって行われると言うよりも、一般の意識をリードする形で行われるものとなる。

現在、男性と女性の役割、社会と家庭のあり方などが社会的にも問い直される中、学校教育の中だけでそれらを考えることは難しい。しかし、これからの新しい社会や家庭を共に築いていく男女が、授業を通して各々の考え方を知り、自分自身を見つめ直し、高校生という段階からそれらについて共に考えていくことは大変重要なことだと思う。さらに、衣・食・住という人間の基本的な生活の本質を問うことによって、人間そのものをも見つめさせていきたいと思う。

本校では、このような考えにもとずき家庭科の男女共学を行っていきたい。従って、代替措置の「生活一般」前半2単位のための履修という形態や、男女別学の授業形態はとらないということに決定した。但し、施設・設備等の面で不十分なところもあるため、拡充を計っていきたい。

### 3) 本校の新カリキュラムの教科の扱い方

1・2学年でそれぞれ2単位ずつ、クラスごとでの授業を行う。